8/12 赤旗

川内再稼働

広島・福島は許さない

原爆碑前 座り込み

広島県原水協と被団協

原爆碑前に座り込む市民や被爆者＝11日、広島市中区

広島県原水協（大森正信筆頭代表理事）と同被団協（佐久間邦彦理事長）は11日、川内原発1号機の再稼働に抗議して、広島市中区の原爆碑前で座り込みをしました。炎天下、市民や被爆者ら約70人が碑に黙とうし、「例年以上に猛暑が続くこの夏も、電力の供給が不足することはなく、危険な原発再稼働の根拠は全くない」との決議を採択しました。

県原水協代表理事の川后（せんこう）和幸県労連議長は「核兵器廃絶を訴えて70年間、放射能の恐怖と隣り合わせに生きてきたヒロシマは、原発ノーを世界に発信し続ける」とあいさつ。佐久間理事長は「原爆も原発も放射能の危険は共通しており、人類と共存することはできない」と訴えました。

「事故の現状を見ろ」

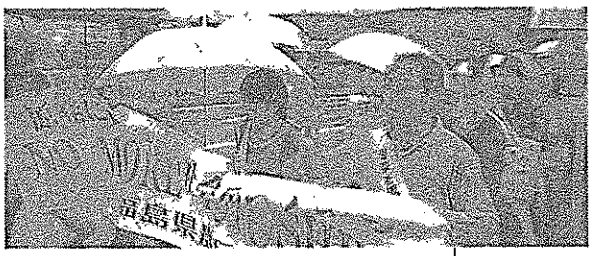
福島で抗議集会・デモ

九州電力の川内原発1号機の再稼働実施に対し、福島市で11日夕方、怒りの抗議集会とデモが行われ約90人が参加しました。ふくしま復興共同センター（代表委員・斎藤富春県労連議長）の呼びかけです。

斎藤代表委員は「福島の現状を見れば再稼働はありえない。この2年間、原発がなくても電気は足りているし、安全な原発などないといいたい」と訴えました。

直前まで川内原発での抗議行動に参加した福島県農民連の代表も「再稼働は許せない」と怒りを込めました。

集会後、大雨を突いて「再稼働を許さないぞ」「政府は福島原発事故の収束に責任を持て」などと唱和しながらデモ行進しました。



ずぶぬれになりながら、川内原発再稼働に抗議しデモ行進する人たち＝11日、福島市

宮城でも

原発問題住民運動宮城県連絡センターは11日、仙台市内で九州電力川内原発の再稼働に抗議する緊急宣伝を行い、署名を呼びかけました。

約30人が参加し、146人から署名が寄せられました。日本共産党の遠藤いく子県議、角野達也、福島かずえ、中嶋れん、大内真理各県議候補が参加しました。

「即時停止を」

各団体が抗議声明

九州電力が川内原発1号機（鹿児島県薩摩川内市）を再稼働させたことに対して各団体が11日、抗議し、中止を求める声明をだしました。

全労連は井上久事務局長が談話を発表しました。川内原発の安全性は担保されておらず、福島第1原発事故の教訓は生かされていないとして、再停止を早急に実現するための運動をいっそう強化するとのべています。

日本原水爆被害者団体協議会は「核兵器と原子力発電は計り知れない地球的規模での被害をもたらす」とし、「再稼働を直ちに中止せよ」と求めています。

原水爆禁止日本協議会は、「再稼働に断固抗議する」声明を安倍首相と宮沢経産相に宛てて出しました。「再稼働を即時停止し、すべての原子炉の廃炉、自然エネルギーへの転換を求める」としています。

日本平和委員会の声明は、「住民の生命と安全を無視した強権的暴挙であり、断じて許すことはできない」とし、再稼働の即時停止と原発ゼロへの転換を求めました。

農民連は声明で、圧倒的多数の国民世論が反対し、周辺自治体が説明を求めるなかで、それを無視して再稼働したことを厳しく抗議しています。

新日本婦人の会は、笠井貴美代会長名で安倍首相らに抗議文を送付。「猛暑でも電気は足りています。電力会社は黒字です。政府は川内原発1号機をただちに停止し、原発ゼロを決断し、世界で主力となっている再生可能エネルギー中心に転換すべき」としています。

日本出版労働組合連合会は、平川修一原発問題委員会委員長名で談話を発表。地元住民の反対を無視した非人道的行為だと批判。九州電力と原子力規制委員会、安倍政権に強く抗議し、脱原発運動を続ける決意を表明しています。